

大木実

暮らしの詩情



大木実 個人蔵

今回の企画展では、身の回りの出来事や情景を平明ながらも味わい深い言葉で綴った作風が特徴で、今年生誕110年を迎える詩人・大木実（1913～1996）を取り上げます。

東京の下町に生まれた大木実は、10代の半ばから詩を書き始め、やがて『四季』の詩人の一人として全国的にその名が知られるようになりました。太平洋戦争後は縁あって大宮に移り住み、大宮市役所に勤めながら多くの作品を世に送り出しました。大宮市を退職した後は鴻巣に転居して詩を書き続け、平成4年には詩集『柴の折戸』で現代詩人賞を受賞しました。

こうした詩作の活動と並行し、埼玉詩人会や大宮詩人会といった団体の立ち上げや運営にも関わり、平成8年に没するまでその顧問を務めました。また、埼玉文芸賞の選考委員や『文芸埼玉』の編集委員などの役職を歴任し、埼玉県における詩の興隆や後進の育成にも大いに力を尽くしてきました。

この企画展では、大木実の詩人としての足跡をたどるとともに、素朴な言葉の中に豊かな詩情が込められた作品の数々を自筆原稿や書によって紹介します。



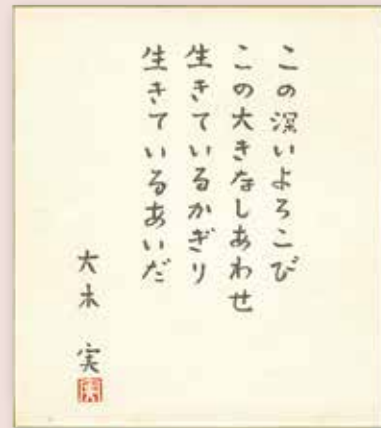
大木実の詩集

当館蔵

16冊ある単行詩集のうち、初期のものの一部



「夕べのからす」自筆原稿 個人蔵



自筆の色紙 個人蔵

詩「モーツアルト」の一節を書いたもの

関連事業

リレートーク 『生誕110年 大木実が私たちに残したもの』

日 時：5月13日（土）14時～15時30分 会 場：当館文学ホール

登壇者：大宮詩人会会員の皆様

（トーク：秋田芳子・植原まつみ・三宮昭一・ふくもりいくこ・宮澤新樹、）
司会：宮澤鏡一、まとめ：新井良和の各氏

申 込：☎048-789-1515まで（先着順150名、参加費無料）

大木実が設立に関わり、亡くなるまで顧問を務めた大宮詩人会との連携によるイベントです。
大宮詩人会会員の皆様から、さまざまな視点で大木実について語っていただきます。

